

2日目＝7月30日（土）曇り時々晴れ

コマクサは愛らしく、雨は薄情

文 H. K

コース・タイム 起床4：30－小屋朝食5：30－出発6：30－東大天井岳分岐8：00－横通岳（パス）－常念乗越9：05～21－荷物デポ9：30－常念岳10：46～55－常念小屋11：45～12：33－一の沢－ヒエ平15：58－入浴－食事－長泉11：00ころ

深夜の雨はテントを物凄いい音で叩き付ける。うつらうつらしながらその音を聞いている。寝ているようで寝てない、寝られないのは仕方がないと思ひ、シュラフカバーに包まっている。それにしてもとても寒い。思わぬ雨に気持ちも下降気味。この雨どうなるのだろうか？

早朝4時頃、小屋泊まりのMさんが傘を差しテントまで様子を見に来てくれた。心配そうに来てくれて嬉しかった。取り敢えず5時30分の小屋での朝食時間に皆で集合しようとCLが伝えた。ぼちぼちこの狭い空間で準備をしなければならない。荷物は四隅に置くしかなく、昨夕真ん中で休んだ私の荷物は出入り口と反対側の窓の下に置いた。



翌日の天場

テントの下は乾いてる

常念小屋に下る



吹き付ける雨でテント内の出入口の浸水がひどいので、出入口付近と窓の下の水を掻き出そうという事になり荷物をマットの上に移動したとき、私のカメラが水没しているのを発見。ショック！そして、窓が網になっていて、しっかり閉じていなかったことを発見。寒い理由がそれだった。

とにかくとんでもない事態になっていた。カメラが壊れてしまったことで大損害。打撃が大きいけれど、そんなことより、何とかしないといけない、濡れてしまっているザックに、濡れている衣類をいれ、片付け始める。乾いているはずのものでも濡れているように感じてしまう。取りあえず、レインウェアを着て、小屋まで行き、食事を終えたらテントを撤収する段取りになった。

ボリュームのある朝食を頂戴し、小屋を出るころやや小降りになってきた。有難い。濡れたテントを片付けることは大変な事だ。中の荷物を外に出し、テントを外していくのだ。畳んでも元の大きさにはならないし、荷物重量は増えている。テント組が片付けている間、小雨の中、小屋組は空身で大天井岳（2922m）を20分位で往復。昨日、雨が降り出す前は裏山みたいな散歩コースのように見えていた。お天気が良ければ槍ヶ岳や穂高が見えるはず？残念でならない。

全員が揃ったところで6:30 出発。霧の中を歩き始める。どんな一日になるか、お天気次第だ。暫く行くと、雷鳥の研究で有名な信州大学の中村浩志教授たちが雷鳥を観察している場面に出会い、雷鳥を見ることが出来た。中村教授は猿が雷鳥を捕食する瞬間を確認している。地道な研究だ。

霧の中のアルプスの縦走路を東天井岳には上がりず常念岳に向かって下る。展望のない山行ほどつまらないものはない。自分の視野は足元や目の前の花たちだけ。ゾクゾクする高揚感が得られないロケーションにがっかりだが・・・仕方がない。昨日の長い表銀座の縦走と雨疲れで、調子が上がらない。靴の中の湿気が最悪。

それでも西側に見えるはずの槍ヶ岳の方向を眺めながら、雲が切れるのを願いながら歩いていた。メンバーは寡黙で黙々と歩く。CLは重量の増したザックを背負ってもマイペースで歩いている。相変わらず2番手と距離が開く。どこの山に上っても富士山を探し、自分の位置を確かめ感じる楽しさがあるのだが・・・本当に残念でならない。

雲が少しずつ切れ始めてきた。すると前穂高の特徴のある3つの山頂が見え、とても嬉しくなった。わくわくしてメンバーに「あれが前穂高！」足を止め皆で眺める。本当に良かった！もうちょっと右手の雲の中に槍ヶ岳が隠れている。全貌が見る事ができるのか？雲が流れ少しずつ穂高連峰が見えてきた。一瞬に近いが、槍ヶ岳が見えた時はメンバーで喜んだ。

カメラが壊れてしまったので 写真に撮れずCLには疑われたが、皆で見た。目的を達することが出来本当に良かった。心が晴れてちょっと元気が出てきた。常念小屋までの下りは梯子がありで大変だ。下りれば下りるほど草の丈が高くなり歩きづらい。

昨日の合戦尾根、表銀座縦走路あたりでも悩まされた虫、草の間にもいる。本当に鬱陶しい。ストレスの元だ。やっとの思いで常念小屋に着いたときは足がよれよれ。大天荘から3時間半くらい掛かった。少々休憩を取る。雨は降っていない。雲は切れ始めている。CLはこれ以降、晴れと予想しているようだ。当初の予定でいくと、常念小屋から蝶ヶ岳ヒュッテまで行って泊まる。5時間30分位の行程だ。

そうなると、順調に行けば16時頃の到着になる。とにかく先に進もうとCLの判断で、岩だらけの常念岳の急な斜面を上がることになった。休憩後の上りはきつい。メンバーのゆっくりした足取りに、CLは急遽、荷物をデポして、空身で常念岳に登頂することを指示した。

私はホッとした。単純なものでとたんに元気が出て常念岳の斜面をぐんぐん上がった。常念岳

(2857m)の山頂は岩場なので大変狭い。小さな祠があるだけだ。Mさんに写真を撮って頂いて、直下まで下り、皆が来るのを待つ。全員が上がり、常念小屋まで下り昼食。風も出てきて、濡れているテントを広げゆっくりと過ごす。天気は回復に向かっている様子がよく分かる。でもこれから下山する。CLはさぞ計画どおり実行できなかったことを残念に思



常念岳頂上

大天荘弁当
酢飯で
美味しかった
とのこと



っているのではないかと想像する。とはいっても常念小屋から一ノ沢登山口まで3時間10分はきつい下りだ。常念乗越から安曇野観光タクシーにCLが電話し、下山後中房温泉までのタクシーを予約する。ドコモが通じるのはここだけのようだ。

下山開始。昨夜の大雨で沢のように水が流れている登山道を下る。胸突八丁までは急坂が続く。滑らないように注意深く下る。常念岳に上がってくる登山者が多く、人気がある百名山という事がよく分かる。

狭い登山道の山側の急な斜面には多くの花が見られ色とりどりに咲き誇っている。とても和や

かな気持ちになる。表銀座縦走コースのコマクサも愛らしくて良かったが、こちらは水が豊富な場所だけあってまた違う花々で優雅な趣だ。当初の目的の一つ、「花々」に関しては申し分のない感動を頂けた。

花好きなIさんやMさんは満足気にみえた。沢を横断する丸太をいくつか渡り、樹林帯を延々と歩き、やっと15:58ヒエ平に到着した時には足の踵の側面が濡れて皮がむけ、腫れてしまうほどだった。湿った靴下や靴がこんなになるとは想像できない状態だった。初めての超疼痛経験だった。他のメンバーも疲れたようだった。3時間30分掛かってしまった。上りで6時間かかったという登山者もいたから無理もない。

予約していた移動タクシーの中でぐっすり熟睡してしまった。中房温泉下の駐車場には17時ごろ到着。残念なことに中房温泉は17時半までなので、安曇野まで30分下り「山のたこ平」という日帰り温泉に行く。入浴料金は¥500。そして、富士尾山荘で夕食を摂り、帰路に着く。

大事もなく下山できて本当によかった。皆さんに感謝です。



ソバナ (岨菜)



センジュガンピ
(千手岩菲)

オオバミゾホオズキ (大葉溝酸漿)